連結財務諸表

連結貸借対照表（要約）

総資産が前期末比で低減

総資産は前期末比99.0%、6億円減の671億円となりました。これは後述するたな卸資産の効率化等によるものであり、売上・利益を成長させつつ資産の効率化を進めることができました。当社では、今後につきましても効率的な資産の運用を心がけていきます。

たな卸資産の効率化が進む

たな卸資産は前期末比94.6%、14億円減の247億円となり、通期の売上高前期比106.1%を大きく下回りました。2018年3月期は、単年度経営方針の一つに在庫効率の改善を掲げ、商品の品番数を削減することによる商品一点一点の完成度の向上や、シーズン当初の在庫投入量を抑制しつつ機動的な売れ筋商品の追加生産を実施すること等に取り組みました。これらの施策がたな卸資産の効率化につながったと捉えています。

長短借入金の動向

負債のうち長短借入金の残高は、前期末に比べ87億円の減となる50億円となりました。

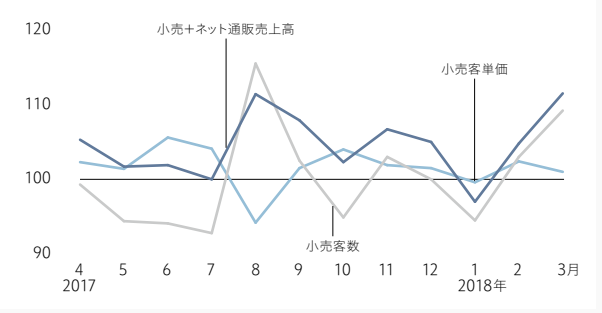
単位：百万円	2017年3月期（2017年3月31日現在）	2018年3月期（2018年3月31日現在）	前期末比（%）
資産の部			
流動資産	45,152	45,878	101.6
（うち、たな卸資産）	26,210	24,799	94.6
固定資産	22,646	21,228	93.7
有形固定資産	10,209	8,907	87.2
無形固定資産	1,965	2,310	117.5
投資その他の資産	10,471	10,010	95.6
資産合計	67,799	67,107	99.0
負債の部			
流動負債	29,805	27,213	91.3
固定負債	7,012	5,203	74.2
負債合計	36,818	32,417	88.0
純資産の部			
資本金	3,030	3,030	100.0
資本剰余金	4,128	4,205	101.9
利益剰余金	29,515	32,340	109.6
自己株式	△6,000	△5,861	—
株主資本合計	30,673	33,714	109.9
その他の包括利益累計額合計	△42	△71	167.7
純資産合計	30,980	34,690	112.0
負債・純資産合計	67,799	67,107	99.0

（株）ユナイテッドアローズの既存店売上高の動向

2018年3月期の既存店前期比は小売＋ネット通販売上高104.2%、客数99.0%*、客単価102.2%*となりました。販売チャネルでは、特にネット通販が既存店売上高前期比116.4%と高い伸びとなりました。商品別では各ストアブランドともウィメンズが好調に推移し、売上をけん引しました。小売既存店客数前期比は99.0%でしたが、参考値として、当社で買上客数の把握できる「ユナイテッドアローズ オンラインストア」および「ゾゾタウン」の客数も加味した小売＋ネット通販既存店客数前期比は102.4%と前期を上回りました。

* 客数・客単価は小売既存店ベースで算出しています。

既存店売上高・客数・客単価 前期比の推移



連結損益計算書（要約）

増収、売上総利益率も改善

ネット通販の伸長や、（株）ユナイテッドアローズ、（株）コーエン等の増収により、売上高は前期比106.1%の1,544億円となりました。また、（株）ユナイテッドアローズおよび（株）コーエンにおける値引販売の縮小等により、売上総利益率は前期から0.5ポイント改善し、51.5%となりました。

販管費率は前期と同水準

増収に伴う相対的な人件費率の低減やたな卸資産の効率化に伴う関連コストの低減、その他固定費率の低減等があった一方、中長期的な成長に向け、第4四半期に既存店の改装・修繕、本部オフィス機能改善等の戦略的な投資を実行したほか、計画達成賞与の支給等により、販管費率は前期と同水準の44.7%となりました。

特別損失

店舗の減損損失や事業撤退に伴う損失の計上等により、特別損失は前期から7億円増加し、21億円となりました。

各利益が増益

以上の結果、営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益の全てが増益となりました。

単位：百万円	2017年3月期（2016年4月1日—2017年3月31日）	2018年3月期（2017年4月1日—2018年3月31日）	前期比（%）
売上高	145,535	154,409	106.1
売上原価	71,379	74,901	104.9
売上総利益	74,155	79,507	107.2
販売費及び一般管理費	64,990	68,989	106.2
営業利益	9,165	10,518	114.8
営業外収益	367	360	98.2
営業外費用	112	103	92.5
経常利益	9,420	10,775	114.4
特別利益	0	1	720.3
特別損失	1,366	2,115	154.8
税金等調整前当期純利益	8,054	8,661	107.5
法人税、住民税及び事業税	3,401	3,667	107.8
法人税等調整額	△559	△414	74.1
親会社株主に帰属する当期純利益	5,191	5,247	101.1

連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

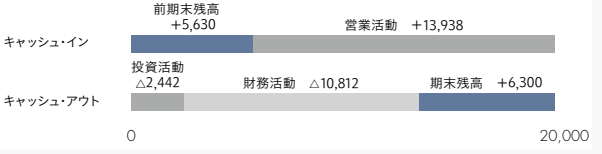
営業活動によるキャッシュ・フローでは、税金等調整前当期純利益86億円、その他流動負債の増加額22億円などの収入があった一方、売上債権の増加額14億円、法人税等の支払額37億円などの支出があったことで、139億円のキャッシュ・インとなりました。

投資活動によるキャッシュ・フローでは、新規出店等に伴う有形固定資産の取得による支出18億円、長期前払費用の取得による支出4億円などがあったことで、24億円のキャッシュ・アウトとなりました。

財務活動によるキャッシュ・フローでは、長短借入金の返済による支出87億円、配当金の支払額22億円などがあったことで、108億円のキャッシュ・アウトとなりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の期末残高は63億円となりました。

単位：百万円	2017年3月期（2016年4月1日—2017年3月31日）	2018年3月期（2017年4月1日—2018年3月31日）	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー（小計）	9,431	17,709	8,277
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,868	13,938	9,069
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,511	△2,442	2,069
財務活動によるキャッシュ・フロー	△508	△10,812	△10,304
現金及び現金同等物の期末残高	5,630	6,300	669

キャッシュ・フローの状況

百万円